

# 豆乳の輸出

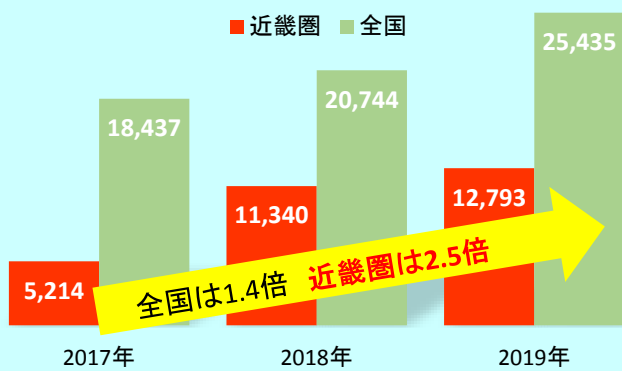


全国・近畿圏ともに輸出が年々増加！  
近畿圏からの輸出が全国シェアNo.1！

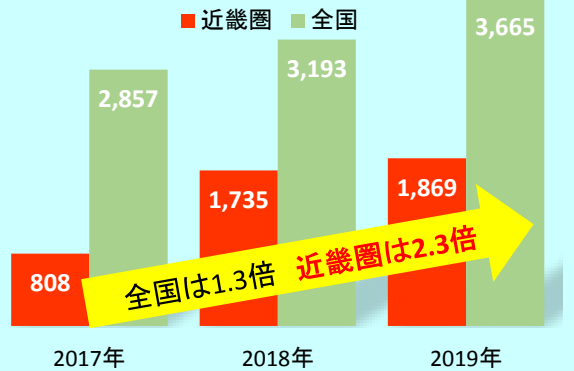
## 輸出数量・金額は、全国・近畿圏ともに増加！！

2017年の輸出統計品目表の改訂によって、新たに「豆乳」の項目が新設されました。2016年までは「水以外のアルコールを含有しない飲料」として、ひとまとめにされていたため、豆乳としての輸出動向が不明でした。2017年からの豆乳の輸出について3年分のデータをまとめると、全国・近畿圏ともに輸出数量・金額が増加していることがわかりました。

### 【全国・近畿圏】数量(KL)



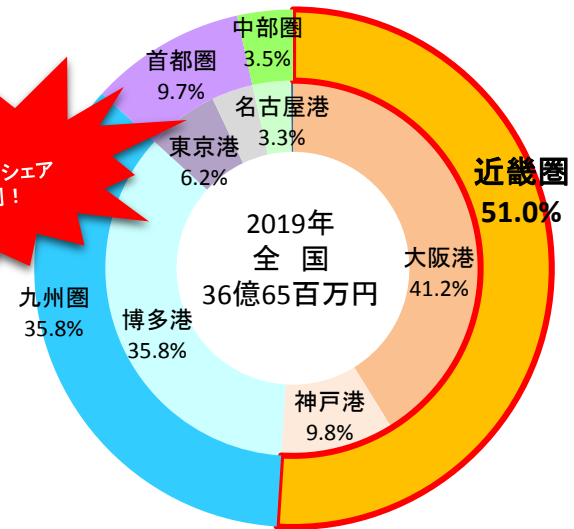
### 【全国・近畿圏】金額(百万円)



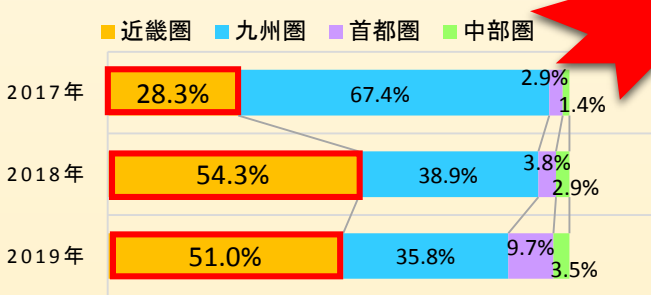
2019年の輸出額を経済圏別・港別でみると、

**近畿圏が51.0%で第1位**、九州圏が35.8%で第2位となっています。近畿圏・九州圏の構成比が高い理由としては、輸出量の多い商品の製造工場が西日本にいくつかあることが挙げられます。工場に近い港が積込港として選ばれているそうです。

### 【経済圏別・港別】金額構成比

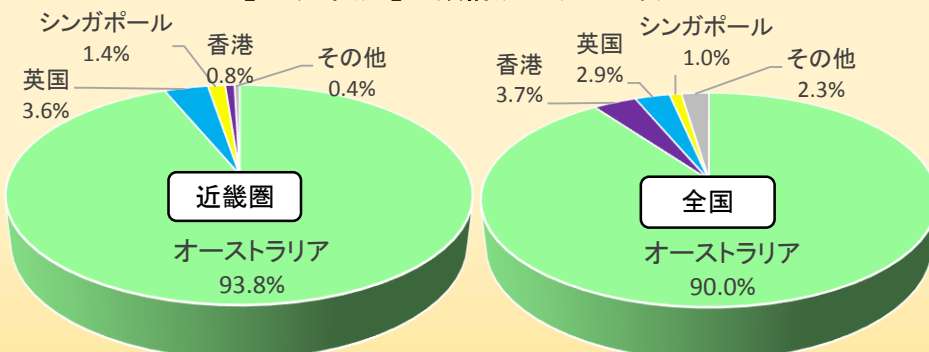


### 【経済圏別】金額構成比(推移)



近畿のシェア5割！

### 【地域・国別】金額構成比(2019年)



輸出先を地域・国別でみると、オーストラリアが全国で90.0%、近畿圏では93.8%を占めています。業界によると、オーストラリアでは、コーヒーに豆乳を入れて作る、**ソイラテ**の人気の高いとのことです。日本産の豆乳は、大豆特有の臭みがなく、美味しく飲めることから、街中のカフェから始まったものが、スーパーでも売られるようになり、一般の家庭に広まったとのことです。

豆乳は、温めて飲むほか、野菜や果物とミキサーで混ぜて豆乳スムージーにするなどの飲み方や、豆乳鍋や豆乳グラタンなどの料理、豆乳ヨーグルトや豆乳アイスなどのスイーツにもなることから、日本国内では老若男女問わず注目を集めています。

日本豆乳協会によると、戦前から栄養価が高く飲みやすい豆乳の研究が続けられ、その後、日本で登場した美味しくヘルシーな豆乳は、世界中でも注目されているとのこと。

同協会によると、2019年における国内の豆乳類の生産量は過去最高を記録し、「豆乳(無調整)」については、この10年で約5倍以上になったとのこと。業界によると、無調整の豆乳は砂糖などが使われていないため、世界的な健康志向にマッチし、輸出されている商品の中でも人気があるとのこと。

業界によると、今後も世界に販路を広げ、日本産の美味しくて飲みやすい豆乳を世界中に広めたいとのこと。

## 豆乳消費量の世界比較

	国別人口 (百万人)	消費量				
		2013年 (千KL)	2018年 (千KL)	2018/2013 伸率(%)	2018年 1人/年間(L)	
		北アメリカ	アメリカ	331	411	232
	カナダ	36	82	64	78.0	1.8
アジア	日本	124	323	421	130.3	3.4
	マレーシア	32	123	103	83.7	3.2
	タイ	70	692	709	102.5	10.2
	韓国	51	227	216	95.2	4.2
	台湾	24	115	154	133.9	6.5
	中国	1355	1260	1626	129.0	1.2
	ベトナム	97	212	338	159.4	3.5
ヨーロッパ	ベルギー	12	26	30	115.4	2.6
	フランス	64	45	64	142.2	1.0
	ドイツ	79	63	79	125.4	1.0
	スペイン	36	131	65	49.6	1.8
南アメリカ	ブラジル	280	72	28	38.9	0.1
オセアニア	オーストラリア	25	78	80	102.6	3.2

出典：日本豆乳協会ホームページ

「豆乳」とは、水に漬けた大豆をすりつぶし、水を加えて煮立ててした乳状の液体のことをいいます。

毎年10月12日は「豆乳の日」だそうです！国民の祝日「スポーツの日」もあって健康や体のケアに気を付ける月(10月)であり、「とう(10)にゆう(2)」「(12日)」と読む語呂合わせから、日本記念日協会に登録されたそうですが、大豆から豆乳を絞った際に出る「おからの日」が、今年から4月8日として新たに登録されたとのこと。



## データ集

### 【経済圏別・港別】

	2017年				2018年				2019年			
	数量		金額		数量		金額		数量		金額	
	KL	構成比	百万円	構成比	KL	構成比	百万円	構成比	KL	構成比	百万円	構成比
近畿圏	5,214	28.3%	808	28.3%	11,340	54.7%	1,735	54.3%	12,793	50.3%	1,869	51.0%
九州圏	12,614	68.4%	1,925	67.4%	8,147	39.3%	1,243	38.9%	9,197	36.2%	1,311	35.8%
首都圏	462	2.5%	83	2.9%	713	3.4%	123	3.8%	2,598	10.2%	357	9.7%
中部圏	147	0.8%	41	1.4%	544	2.6%	92	2.9%	847	3.3%	127	3.5%
全国	18,437	100.0%	2,857	100.0%	20,744	100.0%	3,193	100.0%	25,435	100.0%	3,665	100.0%
大阪港	4,822	26.2%	746	26.1%	8,064	38.9%	1,234	38.6%	10,459	41.1%	1,509	41.2%
神戸港	393	2.1%	62	2.2%	3,276	15.8%	501	15.7%	2,334	9.2%	360	9.8%
博多港	12,614	68.4%	1,925	67.4%	8,147	39.3%	1,243	38.9%	9,197	36.2%	1,311	35.8%
その他	609	3.3%	124	4.3%	1,257	6.1%	215	6.7%	3,445	13.5%	484	13.2%

### 【近畿圏 地域・国別(2019年)】

国名	数量		金額	
	KL	構成比	百万円	構成比
1オーストラリア	12,114	94.7%	1,753	93.8%
2英国	391	3.1%	68	3.6%
3シンガポール	163	1.3%	27	1.4%
4香港	75	0.6%	14	0.8%
その他	51	0.4%	8	0.4%

### 【全国 地域・国別(2019年)】

国名	数量		金額	
	KL	構成比	百万円	構成比
1オーストラリア	23,356	91.8%	3,300	90.0%
2香港	791	3.1%	135	3.7%
3英国	667	2.6%	108	2.9%
4シンガポール	208	0.8%	37	1.0%
その他	413	1.6%	86	2.3%

本資料の「豆乳」は、統計品目番号「2202.99-010」に分類されるものを集計しています。この分類は、調製豆乳及び豆乳飲料を含み、大豆固形分が2%以上のものをいいます。(国内分類例規)

(注1) 本特集における経済圏は以下の都府県を含むものです。

近畿圏：大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の2府4県  
 首都圏：東京、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、埼玉、山梨の1都7県  
 中部圏：愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県  
 九州圏：福岡、山口、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の9県

(注2) 数値はすべて確定値です。

\*本資料を他に転載するときは大阪税関の資料に基づき旨を注記してください。

\*\*本資料に関するお問い合わせは大阪税関調査部調査統計課まで。(電話06-6966-5385)

CUSTOMS



近畿圏、大阪税関管内の貿易統計資料に関しましては、大阪税関ホームページ (<http://www.customs.go.jp/osaka/>) でご覧いただけます。



その他の貿易統計資料に関しましては、財務省貿易統計検索ページ (<http://www.customs.go.jp/toukei/srch/index.htm>) でご覧いただけます。

